

函館大学付属柏稜高等学校
自己点検・自己評価報告書
(平成31年度)

令和2年9月
学校法人野又学園
函館大学付属柏稜高等学校

平成31年度 自己点検・自己評価報告書 目次

各年度における取組状況	1
-------------	---

I. 教育活動

1. 教育理念と教育目標	2
2. 教育課程	2
3. 学習指導	4
(1) 教科の指導	
(2) 資格試験	
(3) 成績評価	
4. 進路指導	8
(1) 卒業生の進路状況	
(2) キャリア教育（3年間見通しての進路指導）	
(3) 関連校連携（キャリアデザインプログラム）	
(4) 進学指導	
(5) 就職指導	
5. 生徒指導	10
(1) 基本的生活習慣の確立	
(2) 生活行動面の指導	
6. 生徒会・クラブ活動	11
(1) 生徒会活動の活性化	
(2) クラブ活動の奨励	
(3) 生徒会クラブ予算の編成見直し	

II. 学校運営

1. 学生受入れ	12
(1) 生徒募集	
(2) 入学試験	
2. 組織運営	15
(1) 教員の組織	
(2) 教員の個人年度目標・計画	
(3) 職員の組織	
(4) 教員による学校評価	
(5) 学校関係者による学校評価	
3. 地域連携	16
(1) 地域社会への貢献	
(2) PTA 活動	
(3) 同窓会活動	
4. 校内研修	17
(1) 授業・学習指導方法の改善	
(2) 危機管理	
5. 施設・設備等	20
(1) 図書室の運営	
(2) 保健室の運営	
(3) 施設・設備	
6. 管理・運営	23
(1) 安全教育・安全対策	
(2) 財務関係	

各年度における取組状況

	大項目	中項目	H27	H28	H29	H30	H31
I 教育活動	1. 教育理念と教育目標		○			○	
	2. 教育課程		○	○	○		○
	3. 学習指導	(1)教科の指導	○	○	○	○	○
		(2)資格試験	○	○	○		
		(3)成績評価	○	○	○	○	○
		(4)生徒による授業評価	○	○			○
	4. 進路指導	(1)キャリア教育（3年間見通しての進路指導）	○			○	○
		(2)関連校連携（キャリアデザインプログラム）	○	○		○	
		(3)進学指導		○	○	○	○
		(4)就職指導		○	○	○	○
	5. 生徒指導	(1)基本的生活習慣の確立			○	○	○
		(2)生活行動面の指導		○	○		
	6. 生徒会・クラブ活動	(1)生徒会活動の活性化			○	○	○
		(2)クラブ活動の奨励	○				○
II 学校運営	1. 学生受入れ	(1)生徒募集			○		○
		(2)入学試験		○	○	○	
	2. 組織運営	(1)教員の組織			○	○	
		(2)教員の個人年度目標・計画			○		○
		(3)職員の組織				○	
		(4)教員による学校評価		○			
		(5)学校関係者による学校評価					○
	3. 地域連携	(1)地域社会への貢献				○	○
		(2)PTA活動	○				
		(3)同窓会活動		○			
	4. 校内研修	(1)授業・学習指導方法の改善	○		○	○	○
		(2)危機管理	○	○			○
	5. 施設・設備等	(1)図書室の運営	○				○
		(2)保健室の運営				○	
		(3)施設・設備	○		○		○
	6. 管理・運営	(1)安全教育・安全対策				○	○
		(2)財務関係				○	○

※表中の○印はその年度中に改善に向けての取り組みのあった項目を示している

I. 教育活動

1. 教育理念と教育目標

創立者の掲げた学園訓三か条「報恩感謝・常識涵養・実践躬行」の下、創立者の「建学の精神」とは学園訓の三か条を具体的信条として、知・情・意を高度にして、しかも円満に発達させる真の学問追及をすることである」との精神を学校経営の根幹に据え、式典や行事など機会ある毎に触れている。

これからの社会の変化や社会で求められる人材について教職員間で話し合いを重ね、本校の目指すビジョンを「自立」と定めた。

平成 31 年度「教育と経営に関する計画」も「自立」を念頭に、別表（次ページ）のように大きく見直した。なお、平成 30 年度は本計画の平成 30 年度版に従い進めてきたが、平成 31 年度に向けて見直しを図ったので、平成 31 年度版を載せている。この計画は、建学の精神・理念にもとづき、重点課題を「教育」と「経営」に分けて整理したものであり、中期経営計画（平成 29～31 年度）を念頭に課題や取り組むべきことを具体的に教職員に示したものである。

《H27～29》各年度の「教育と経営に関する計画」作成

《H30》「自立」というビジョンの下、平成 30・31 年度「教育と経営に関する計画」の作成
（次ページ参照）

【現状と課題】

教育理念と教育目標は、大きな方針となるためどうしても具体性に欠けがちとなる。このため、教職員に学校の目指している方向性やその年度の目標をわかりやすく示すために、「教育と経営に関する計画」を作成している。平成 31 年度は「自立」というビジョンを教職員で共有し意識しながら各種の教育活動を実施したが、「自立」に向けたより良い活動のための反省が数多く見られた。それらを今後の活動に生かしていかなければならない。

2. 教育課程

平成 27 年度から「学び直し」と「受験」の双方を視野に入れた見直し、実践的な外国語教育を目指した取り組み、商業科の「課題研究」を中心とした見直し、1 単位 35 時間の確保を進めてきた。平成 31 年度は文部科学省の指導に則り、令和 2 年度以降の商業科における「家庭基礎」の履修学年の変更を行った。

《H27》教育課程を部分修正し平成 28 年度教育課程を作成

1 年生で 35 時間／単位／年の授業時間数を確保

《H28》平成 29 年度教育課程を作成

2 年生で 35 時間／単位／年の授業時間数を確保

《H31》令和 2 年度教育課程を作成

文部科学省の指導に則り、商業科における「家庭基礎」の履修学年を変更

【現状と課題】

近年、進学希望者が増加傾向にあるが、高校を最終学歴とする生徒が多くいることを念頭に、言語能力、計算能力をはじめ社会に貢献していくための基礎となる能力の強化を目指すと同時に、社会の要請が強まっている実践的な外国語教育に力を入れた教育課程の見直しを行ってきた。生徒の理解を深める効率的な授業を目指し、全クラスへの電子黒板と教師用タブレットの設置、実践的な外国語教育を目指し、ALT との TT に加え、2 年生でのオンライン英会話導入な

どを行ってきた。また、商業科の活性化のために、「課題研究」をこれまでの「商品開発→販売実習」中心から「調査→研究→発表」を取り入れたものに見直したが、「発表」の部分では大きな改善が見られるものの、「調査→研究」の部分ではまだまだ試行錯誤の段階である。また、「課題研究」の授業のうち、週1時間はALTの授業を取り入れ、実社会で少しでも役立つ英語力の養成を目指している。校外での取材もあり、生徒にとっては良い刺激となっていた。まとめとして、英語を交えたプレゼンテーションも実施した。

3. 学習指導

(1) 教科の指導

平成31年度の「学び直し」について振り返ると、1年生への「スタディサプリ」導入が非常に効果的であった。「到達度テスト」による弱点発見、「指定動画の視聴」による個別の弱点克服というステップで進めることができ、普段の課題として、長期休暇中の課題として有意義だった。特に数学においては、春と秋の到達度テストのスコアが100点満点中で20点近く上昇する等、効果が顕著であった。国語・英語に関してはこれまでの取り組んできた内容や教材もあるため、全面的にスタディサプリを活用した学び直しにはならなかったが、課題として活用する中で有用性は十分に確認できた。

また、2年生の英語の授業で実施している「オンライン英会話」について、平成31年度は「Weblio」を利用したところ、非常に通信が安定しており、生徒たちは英会話・英語でのコミュニケーションに集中できていた。海外修学旅行とのリンクも上手くいった。

通常の授業については、従来通り、どの教科・科目においても「基礎基本の徹底」「基礎学力・学習力」の向上を意識して行った。また、教員の側に新学習指導要領への意識が少しずつ見られるようになり、講義型の授業場面だけでなく、生徒の頭の中がアクティブになるような生徒主体の活動場面が増えてきた。

それらに加え、実力試験に業者試験を導入したことで、校内だけではなく、全国の中で自分の学力を判断する指標が得られたことも学習意欲の喚起につながっている。

(2) 資格試験

これまでの反省から、案内する資格試験を精査し、事前講習など指導のできるものに絞って実施した。この結果、特に英語検定やニュース検定で効果をあげることができた。また、調査書が新書式となったこともあり、資格・検定にチャレンジする生徒の数も増えてきている。

(3) 成績評価

成績評価に関しては、同一学科、同一学年、同一科目における試験問題共通化と評価点が高すぎることの2点が課題であった。定期試験後、全学年全教科の試験平均の確認を行う中で、学力の適正な評価や教職員の授業改善につながり得る試験問題の作成を促している。

(4) 生徒による授業評価

＜授業、学校生活、行事や施設設備に関するアンケート＞

平成27年度から全クラスを対象に、授業の満足度や学校生活等に関するアンケートを実施している。その中から、授業評価や満足度に関係する部分を拾い上げてみた結果、6～7ページに示したグラフの通りであった。

授業のわかりやすさに関しては肯定的な回答が多く、一見すると良い結果に見えるが、本校生徒の授業外学習時間の少なさを併せて考えた場合、「学習不足でも理解できる」レベルに授業や試験の難度が設定されている可能性がある。近年、進学希望者が増加している傾向に

あることも踏まえて、授業ならびに試験の難度設定を再考する必要がある。

《H27》「つまずき度テスト」の実施と「学び直し」の検討

資格試験の精査

成績評価の実態把握と対策

生徒対象学校生活満足度アンケートの実施

《H28》主要三教科の「学び直し」を週1時間、時間割に取り入れて実施

資格試験の精査と実施方法の見直し

成績評価の適正化と対策

《H29》国語、数学の「学び直し」に新たな教材を導入し実施

資格試験の新たな実施方法での実施と柏稜独自の英語スピーキングテスト実施

学び直しの検証と伸び率による表彰新設（奨励賞）

教務規程の見直し

《H30》教務規程の見直し

学び直しの新たな教材の研究

《H31》1年生へのスタディサブリ導入と活用

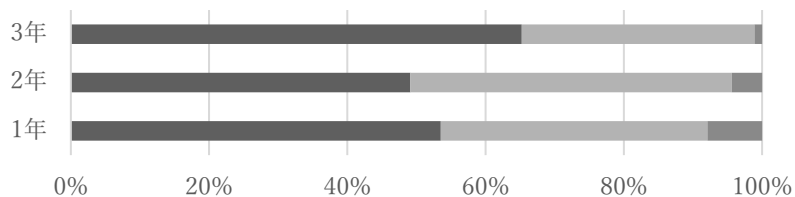
実力試験における業者試験の導入

【現状と課題】

前述のように「スタディサブリ」は学び直しに非常に効果的であった。ただし、年度末の反省の中で、「課題への取り組みは非常に熱心だったが、生徒が自主的に取り組む段階までは導けなかった」という意見が複数出された。次年度以降の課題である。

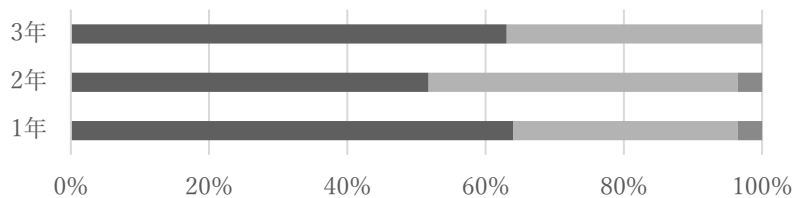
また、「実践的な英語」、「ICTの活用」などについては、中学生や保護者の関心も高く、入学者が増える要因の一つとなった。ただし、本校生徒の学力を向上させ、生徒・保護者の期待に答えていくためにはこれらの取り組みをさらに充実させていく必要があり、今後もより一層の研鑽が欠かせない。

平成31年度 柏稜高校に入学して良かったと思いますか？



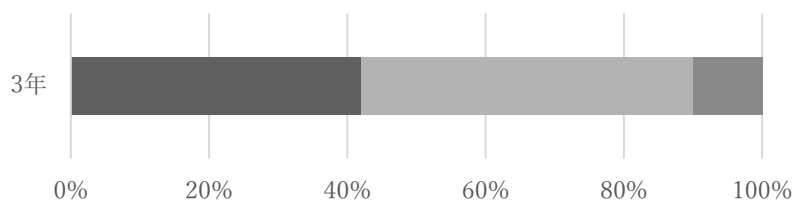
	1年	2年	3年
■ そう思う	61	56	60
■ ややそう思う	44	53	31
■ そう思わない	9	5	1

平成31年度 高校生活は充実していましたか？



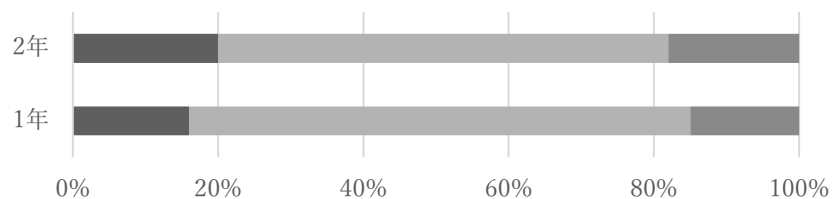
	1年	2年	3年
■ そう思う	73	59	58
■ ややそう思う	37	51	34
■ そう思わない	4	4	0

平成31年度 柏稜の授業は分かりやすかったですか？



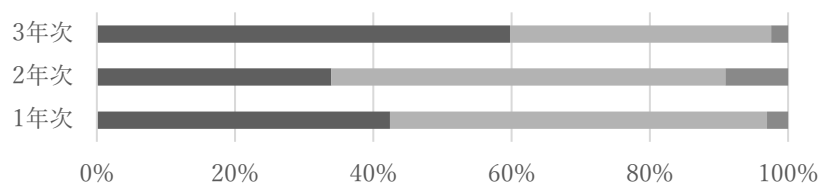
	3年
■ そう思う	42
■ ややそう思う	48
■ そう思わない	10

平成31年度 分かりやすいと思う授業数は？



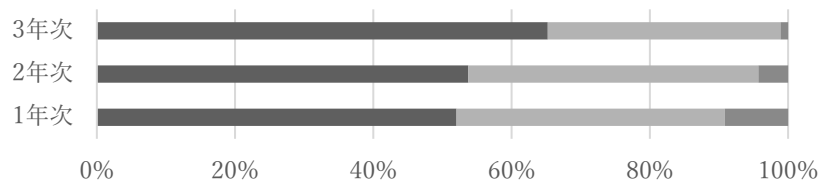
	1年	2年
■ 7教科以上	16	20
■ 4～6教科	69	62
■ 3教科以下	15	18

平成28年度入学生の満足度推移



	1年次	2年次	3年次
■ そう思う	70	56	98
■ ややそう思う	90	94	62
■ そう思わない	5	15	4

平成29年度入学生の満足度推移



	1年次	2年次	3年次
■ そう思う	51	50	60
■ ややそう思う	38	39	31
■ そう思わない	9	4	1

4. 進路指導

(1) 卒業生の進路状況

卒業生の進路状況と進学者の内訳

卒業年度	大学	短期 大学	専修・各 種学校	高等看護 ・准看護	進学者計 ()内%	就職者計 ()内%	その 他	卒業生 総数
平成 25 年度	21	13	43	1	78 (52.3)	68 (45.6)	3	149
平成 26 年度	16	18	41	2	77 (51.7)	69 (46.3)	3	149
平成 27 年度	28	18	45	3	94 (54.3)	72 (41.6)	7	173
平成 28 年度	23	9	44	5	81 (50.6)	70 (43.8)	9	160
平成 29 年度	25	11	43	5	84 (58.7)	57 (39.9)	2	143
平成 30 年度	30	13	42	6	91 (55.5)	69 (42.1)	4	164
平成 31 年度	18	7	29	4	58 (63.0)	33 (36.0)	1	92

就職者の内訳

卒業年度	管内	道内	道外	自衛隊・ 公務員	その他	就職者計
平成 25 年度	53	1	11	2	1	68
平成 26 年度	48	5	8	7	1	69
平成 27 年度	50	2	10	10	0	72
平成 28 年度	48	4	10	8	0	70
平成 29 年度	44	3	2	8	0	57
平成 30 年度	54	5	2	8	0	69
平成 31 年度	24	3	0	6	0	33

(2) キャリア教育

本校でのキャリア教育は、総合的な学習の時間ならびにLHRでの取り組みが中心となっている。平成 30 年度に、インターンシップについて、対象者と実施時期の見直しを行った。3年間を見通した進路学習の必要性が年々高まり、進路選択の時期も早まっているためこのような形態を取った。

平成 31 年度にはより効果的な進路学習を目指し、業者と連携し、インターンシップ・オープンキャンパスプログラムを実施した。

(3) 関連校連携（キャリアデザインプログラム）

学園関連各校の協力を得て平成 25 年度にキャリアデザインプログラムがスタートした。

実施効果については、受講生の進学先での学修状況を調査することで検証可能と思われるが、現時点ではサンプル数が少ないため、今後さらにデータを蓄積することで分析を進めたい。ただし、3年生で実施する総まとめのプレゼンテーションやCDPアンケートから、我々が予想した以上に多くのことを生徒が学んでいることが如実に感じられる。

また、非常に多くの本校入学者が同プログラムを志望理由に挙げており、入学者増につながっていると考えられる。平成 31 年度には大阪府議会の議員団や静岡の県立高校が視察に来校する等、注目度が高まってきている。

平成 31 年度は、キャリアデザインプログラムでの協力依頼と通常の進路学習での協力依頼

が混在し分かりにくいという反省から、「連携カレンダー」を作成した。関連各校にはご負担をお掛けしているが、今後ともご協力をお願いしたい。

(4) 進学指導

本校では、大学・短大や専門学校への進学者の多くが推薦入試またはAO入試で進学している現状から、面接指導・小論文指導など推薦入試対策を充実させている。3年生の国語の授業との連携も図っている。看護・医療系などを意識した一般受験対策講習や個別指導も継続しており、平成31年度は看護・理学療法士・作業療法士など医療系全体で9名が合格した。平成29年度11名、平成30年度15名、平成31年度9名で、志願者数に変動はあるが3年連続100%の合格率となっている。

また、実力試験に業者試験を導入したことで、校内だけでなく全国の中での学力を判断する指標が得られたことも、学習意欲の喚起と進路指導の向上につながった。

(5) 就職指導

平成28年度から、「学び直し」の徹底、国語授業との連携、面接指導の強化、資格取得の推進、地元企業との信頼関係構築と情報収集などを進めてきた。

平成31年度は、以前から行ってきたハローワークとの連携を一層強め、就職希望者個別カウンセリングの回数や実施時期の見直し、長期休暇中のカウンセリング実施などを行った。

ニュース検定については、受検者は増加したものの合格率は下がる結果となった。資格取得に向けた対策講習等は従来通り行ったが、今後は増加した受験者の学力とモチベーションを向上させる新たな指導が必要となる。

ニュース検定の受験・合格状況

※合格者数(受験者数)合格率(年間延べ数で表記)

	2級	準2級	3級
平成27年度	0(0)0%	0(5)0%	12(18)66.7%
平成28年度	0(0)0%	1(3)33.3%	8(11)72.7%
平成29年度	1(3)33.3%	3(6)50.0%	16(20)80.0%
平成30年度	2(2)100%	11(19)57.9%	34(43)79.1%
平成31年度	0(0)0%	10(17)58.8%	46(83)55.4%

《H27》総合的な学習とLHRの取り組みの整理

キャリアデザインプログラムの3年間の総括

《H28》キャリアデザインプログラムの進学先での修学状況調査

講習会と実力試験の在り方を検討

校内で実施している各種検定の見直し

《H29》実力試験は目的を明確にして実施

事前指導体制の取れる検定に絞って実施

《H30》看護・医療系など一般受験対策講習の見直し

地元企業への取り組み強化

《H31》実力試験の見直しと業者試験導入

業者と連携しインターンシップ・オープンキャンパスプログラム実施

ハローワークとの連携強化

【現状と課題】

キャリアデザインプログラムは生徒が進路を考える上でも、広報的な意味でも非常に有意義である。また、通常の進路学習についても、断片的・イベント的な取り組みに終わらず、3年間を見通したストーリーのある指導を目指して改善を進めている。今後、この二つの取り組みの関係をどのように整理するかが課題である。

また、新学習指導要領に基づく学力観の変化や入試の変化、そして、社会で求められる力の変化にいかに対応していくかが課題である。

5. 生徒指導

(1) 基本的生活習慣の確立

「自立」した生徒を育成していく中で、基本的生活習慣を確立することは不可欠であることを教職員間で再確認し、今まで以上に「小さなこと」を大切に指導に当たった。小さな気の緩みや小さな甘えを「このくらいは……」と放置してしまうと、その緩みや甘えは次第に膨らみ、生徒の「自立」を阻害することになる。卒業後、就職する生徒も多い本校において、在学中に大人として「自立」させるために、「小さなこと」を大切にしたい。

また、今まで「丁寧な指導」、「たくさん手を掛ける指導」を意識するあまり、生徒が出来ることにまで教員が手を出してしまっているのではないかという反省から、「出来ることは生徒自身に取り組みせ、それを見守る指導」への転換を図った。とは言え、様々な取り組みについて振り返った際に、「まだまだ生徒自身でできることがあった」という指摘が多々あり、今後意識していく必要がある。

生徒の生活の状況を把握する手段の一つとして「生活状況等に関する調査」を実施しているが、それによると、平日・休日ともに授業外学習時間が不足している状況が判明した。数年来の課題ではあるが、未だに改善できていない現状がある。家庭学習時間が「ほぼ0分」という生徒が45%ほど、「30分未満」という生徒が25%ほどいるが、この状況を何とかして改善していきたい。ただ、学習内容の面で見ると、「宿題」「試験勉強」については一生懸命に取り組んでいる生徒が多いこと、1年生に限るとスタディサプリの連動課題についてはほぼすべての生徒がしっかり視聴していることなど、改善のヒントになることも見えてきているので、次年度以降、改善につなげていきたい。

(2) 生活行動面の指導

平成28年度に生徒指導規定と内規を作成し、平成29年度より運用を開始した。学校全体が温度差のない統一した生徒指導を目標として活動し、運用開始後に発生した生徒事故については、生徒指導規定と内規を基準としてしっかりと判断ができた。また、頭髪検査、登校指導などは、各学年主任の協力を得て検査基準など学年間で統一することができた。

近年、SNSに関係した生徒指導問題が増加傾向にあり、1年生を対象とするSNSや携帯電話の利用に関する講話を実施するなど指導を強化してきたが、それでもなお生徒指導問題にSNSが関係しているケースが目立つことから、平成31年度の反省では、次年度以降は全学年を対象に講話を実施することとした。

主な講話：交通安全教室（全学年4月）、性教育講演（1年生6月）、たばこ健康に関する講話（全学年7月）、薬物乱用防止講演（1・2年生1月）、SNSや携帯電話の利用に関する講話（1年生5月）

《H28》生徒指導規定の整備と生徒指導問題処分内規の見直し

《H29》生活状況調査の実施

SNS や携帯電話の利用に関する講話を全学年で学年別に実施

《H30》校内の種々の調査を生活状況調査に一本化

【現状と課題】

平成 28 年度の生徒指導規定と生徒指導問題処分内規の見直しを契機に、教員が一枚岩となって生徒指導に当たってきた。また、生徒の「自立」を意識し取り組んだ結果、少しずつ指導が変容してきている。

近年の入学生の中には、以前であれば高校入学の時点で身につけていたであろう様々な習慣や一般常識的なことを指導されておらず、理解していない生徒が見られる。高校 3 年間で「自立」した大人になれるよう、しっかり指導していきたい。

6. 生徒会・クラブ活動

(1) 生徒会活動の活性化

生徒会活動・委員会活動において生徒の主体的な活動を促した。各行事の運営に当たり、教員が指示を出すのではなく、事前に生徒間で話し合いを行わせた上で教員が助言していくということを意識した。

特に柏稜祭においては、生徒会・各委員会が入念に打合せを行い、模擬店のレイアウトの大幅な変更や、平成 29 年度から誰もが安心して楽しめる柏稜祭を目指して導入した招待制の受付時のコンピュータ活用など、新たな取り組みを実現した。

一つひとつの行事における準備には今までよりも時間が掛かるようになり、教員の負担はむしろ以前より大きくなったが、話し合いを重ねる中で生徒が成長していく姿が見られた。

(2) クラブ活動の奨励

本校では、クラブの活性化に課題があったが、近年、クラブ加入率も増加傾向にある。生徒の成長につながるよう、本校のクラブ活動の在り方を皆で考え、活動方針を踏まえつつ、生徒・保護者の期待に応える術を模索していきたい。また、近年の遠征にかかる費用の実情を踏まえて、大会参加・遠征に関する規定を見直し運用した。

(3) 生徒会クラブ予算の編成見直し

課題であった生徒会予算のクラブ部費に関しては、過去の予算額に縛られることなく、(クラブ顧問と主将もしくは部長との間で必要経費を検討) → (購入希望用紙の提出) → (顧問会議) → (予算の見直し) → (次年度の予算案の決定) という手順で進めるよう見直しを図っているが、教員間にこの趣旨が浸透するまで、粘り強く取り組んでいかなければならない。

【クラブ加入率の推移】

	H26 (500 名)	H27 (496 名)	H28 (493 名)	H29 (419 名)	H30 (385 名)	H31 (330 名)
運動部	187(37.4%)	180(36.3%)	174(35.3%)	197(47.0%)	178(46.2%)	160(48.5%)
文化部	94(18.8%)	79(15.9%)	77(15.6%)	72(17.2%)	71(18.4%)	60(18.1%)
合計	281(56.2%)	259(52.2%)	251(50.9%)	269(64.2%)	249(64.7%)	240(72.7%)

教員数とクラブ数の関係で、これまで一人顧問のクラブがほとんどであったが、事故・怪我の対応などを考慮し、平成 28 年度から運動部は二人顧問とした。

【二人顧問の割合】

	H27		H28		H29		H30		H31	
	運動	文化	運動	文化	運動	文化	運動	文化	運動	文化
全クラブ数	12	11	12	11	12	10	12	10	12	6
二人顧問のクラブ数	7	4	12	1	12	1	12	1	12	1
二人顧問のクラブの割合 (%)	58.3	36.4	100	9.1	100	10.0	100	10.0	100	16.7

《H27》クラブ展示室での展示

《H28》生徒会クラブ予算の編成に関する見直し

《H29》柏稜祭来客者の招待制実施と使い捨てスリッパの試験的使用

《H30》熱中症対策として、体育館用大型扇風機の購入

《H31》大会参加・遠征に関する規定見直し

【現状と課題】

生徒会ならびに委員会の活性化は順調に進んでいる。「自立」を目指し、生徒の主体的な活動を大切にしていくことで、より活発な活動が期待できる。

クラブ活動については、活性化が必要な反面、クラブ活動指導方針に則った活動であらねばならないこと、現有教員数とクラブ数のアンバランス、労働基準法に則った教員の勤務時間の制限など、難しい問題が山積している。

クラブ活動を衰退させることなく、クラブ活動が持つ教育的な意義をいかに維持していくかが大きな課題である。

Ⅱ. 学校運営

1. 学生受入れ

(1) 生徒募集

広報活動は本校の教育活動を広く正確に知ってもらう上で非常に重要である。本校は広報活動として主に次の①～⑥の6項目に力を入れて取り組んでいる。

① ホームページによる学校ニュースの掲載

現在の広報ツールとして欠かせないものが学校のホームページである。平成26年度に全面的にリニューアルし、ニュースのアップも簡便になったため、リアルタイムなニュースアップが可能となり実践できている。

② 学校見学会

＜学校見学会の回数増加と内容充実＞

以前は8月に学校見学会を実施していたが、他校の見学会と重なる等の問題があったため、平成25年度より、8月（または9月）と10月の年間2回実施してきた。参加状況は次の通りである。

【学校見学会の参加状況】

	H26		H27		H28		H29		H30		H31	
	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回
生徒	131	151	153	209	141	106	155	78	111	105	164	117
保護者	24	37	49	60	48	22	43	17	67	41	73	51
教育関係	4	5	—	5	3	6	5	3	5	2	3	3
小計	159	193	202	269	192	134	203	98	183	148	240	171
合計	352		471		326		302		331		411	

本校の学校見学会は「学校説明」「学校紹介 DVD 上映」「歓迎演技・演奏」「高校授業体験」「クラブ体験」「中学校 OB の案内による中学校別施設見学」「一日柏稜生（制服試着）」など、様々な企画を実施している。

平成 31 年度は新たな取り組みとして ALT・ESS 部による英語コミュニケーション体験や、スタディサプリ体験を実施し、好評を博した。

③ 中学校進路学習会への講師派遣

＜中学校進路学習会への協力＞

【中学校の進路学習会への講師派遣依頼件数】

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
校数	12 校	16 校	17 校	16 校	15 校	12 校	14 校

中学校での進路学習会への講師派遣依頼校数は上表の通りである。

以前は 3 年生を対象としたものが中心であったが、近年 1・2 年生を対象としたものも増加傾向にある。実施形態は、体育館等での一斉講話、教室毎に分かれて希望する高校の講話を聞くもの、全体講話の後にブース形式に分かれるものなど様々であるが、平成 31 年度は延べ 965 名に対して進路講話を行った。また、総合学習や宿泊研修において 9 中学校、延べ 210 名が来校、その他 1 校の P T A 12 名が P T A 研修で来校した。

これらの機会を利用して本校の取り組みを伝えることは広報的に非常に大きな意義を持っている。広報によって中学生ならびに保護者の興味を喚起しなければ、そもそも選択肢には入らない。選択肢に入った後は、在校生にどれだけ充実した指導ができているかが問われる。広報の充実と教育内容の充実を両輪として、今後も活動していく。

④ 学校の訪問

中学校訪問は年 3 回、卒業生・在校生の出身校を基本とし、必要に応じて随時実施している。春は入学のお礼と卒業生の進路報告が中心、夏は学校案内配布と学校説明、在校生報告、その他情報収集が中心、秋は入試要項の配布と進路決定に向けた最終の学校説明が中心である。夏と秋の訪問については、中学校の進路担当教諭と直接コンタクトをとりたいという考えから、募集の中心となる市内中学校は教務部教員の広報担当者を中心に、郡部の中学校は管理職が訪問した。

⑤ 報道関係の対応

北海道新聞、北海道新聞みなみ風、函館新聞、北海道通信を中心に教頭が対応している。

各種行事やクラブの各種大会等の際には、教頭や担当分掌の教員・クラブ顧問が適宜対応している。また、NCV やラジオ等の取材も学校長の許可を得た上で、同様に対応している。

広報すべき諸活動は年間行事計画でチェックし、その事前・事後に報道関係に連絡する体制を整えている。

⑥ 各種広報資料の作成と配布

柏稜の魅力を十分に伝え得るパンフレットを目指して平成 29 年度から毎年見直しを続けている。平成 30 年からは学校パンフレット作成の経験の豊かなデザイナーを入れ、改善を図ってきた。また、ホームページについても若手の教員が中心となってニュースの更新を行っている。

平成 31 年度は、秋の中学校訪問に際し、「中学校教員が三者面談において生徒・保護者に柏稜を勧めるための材料を提供する」という目的で新たな配布資料を作成した。以前配布していたサブパンフレット（パンフレットの縮小版）ではなく、現在の柏稜の取り組みの中で、特に力を入れていることを PR するリーフレットである。中学校側の反応も良好で、次年度以降も継続していきたい。

(2) 入学試験

本校では、1 月に特別奨学生を含む推薦入試、2 月に一般入試を実施している。推薦入試では、人物・意欲に重点を置いて面接試験を行っている。一般入試では、基礎的な事項を中心に学力を判定し、個人面接によって人物・意欲を判定している。

＜生徒情報共有のための中学校との連携＞

高校での指導をスムーズに進めるために、中学校からの情報提供は非常に重要である。特に、病気その他の事情による長期欠席のある生徒や、特別な配慮を必要とする生徒の情報は不可欠なものである。入試直前における中学校からの生徒情報の提供件数、相談件数は次の表の通りである。令和 2 年度入試においては、下記の他に、出願書類に事情説明の書類が添付されていたケースが 17 件、調査書内容から事情確認が必要と判断しこちらから問い合わせを行ったケースが 21 件あった。

ただ、配慮が必要であるにもかかわらず、中学校からは全く連絡が入らず、入学後の保護者からの相談等で初めて事情が判明するケースもいまだにあり、対応に苦慮している。

【入試直前における中学校からの情報提供・相談件数】

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
情報提供・相談件数の総数	82	55	64	104	45	60	54	69

(3) 1 年生対象入学後アンケート（7 月）

平成 28 年度から新たに 1 年生対象に、入学後、1 学期を本校で過ごした時期に、受験に至った経緯や実際に入学してどのように感じているか、ということを中心にしたアンケートに切り替えた。その結果を整理した。

①学校案内やホームページの閲覧状況

学校案内（パンフレット）は「しっかり読んだ」「部分的には読んだ」という人が 84%、HP を見たことがあるという人が 73% と、いずれも良く活用されていることが確認された。どちらもさらに内容を充実させ、見やすいものへと工夫していくことが大切と考えている。

②学校見学会

2 回実施（9 月・10 月）している学校見学会に 1 回、または 2 回とも参加した生徒が 53.8% であった。前年度の 49% という参加率も併せて考えると、入学生半数前後が学校見学会に参加していることになり、生徒募集の上で重要なイベントであることが再確認できた。今

後も、参加者の増加と入学率アップに向けて内容を工夫していきたい。

③ 柏稜に対する印象

「明るい」「楽しい」「先生・先輩が優しい」「温かい」といったポジティブなイメージが上位を占めている。入学後 3 カ月半を本校で過ごして生徒たちの生の声を広報活動に生かしていきたい。

(4) 入学金減免制度の導入

入学者の中の経済的負担が大きな家庭に対する配慮として、平成 30 年度入試から、入学金減免制度を導入した。

《H28》入学試験時に実施の受験生に対するアンケートの取り止め

入学した 1 年生対象にしたアンケート実施（7 月）

合格通知に同封する多数の関係書類の大きさの統一と冊子化

《H29》入試下見を 14 時からに変更し、在校生は 2 時間の授業を実施した。

学校見学会で「高校授業体験」を実施（国語、英語、数学、理科、商業、音楽の 6 教科）

サブパンフレットの取り止め

《H30》入学金減免制度の導入

【現状と課題】

函館市内の中学校の統廃合が進み、学校数が減少している中、進路学習会講師の依頼が増えていることは大きな意味を持つ。本校の P R はもちろん行うが、「中学生のためになる講話」、「中学校の先生方の指導を助ける講話」を心掛け、継続的に進路学習会講師の依頼が来るようにしていきたい。

入学試験に関しては、前述のように特別な配慮を必要とする生徒の情報が十分に提供してもらえない場合もあり、いかにして情報を共有するかが課題となっている。

2. 組織運営

(1) 教員の組織

土曜日の放課後の教科会議（科会）や校務分掌各部の会議（部会）は 4 年目に入り定着した。それに加えて、学年主任・各分掌部長・教科主任の呼びかけによって、独自に打ち合わせ会議を持つことが増えており、情報共有・意識の統一が順調に進んでいる。

また、教員数の減少にあわせ平成 30 年度に特別活動部と厚生部を統合し、「特活厚生部」としたが、2 年目に入り効率的な動きができるようになってきた。

(2) 教員の個人年度目標・計画

教員には新年度に個人の「年度当初の目標・課題等」の提出を義務付け、年 2 回の教員面談を実施している。夏休みの面談においては「目標の進捗状況、課題の解決状況等」を中心に、冬休み明けの面談は「クラブ指導にかかる評価シート」に関する面談もかねて実施している。この「クラブ指導にかかる評価シート」に関しては、クラブ指導の面だけでなく自己研鑽や進路指導、地域貢献に係る内容も記載することになっており、単にクラブ指導に留まらない「人事評価」の側面を備えている。今後、教科指導・生徒指導・クラブ指導等、教員の他の職務も評価できるとより良い制度になるのではないかと。

(3) 職員の組織

本校の事務職員は、事務長をトップにして専任が 4 名、パートタイムが 1 名の 5 名体制である。近年、就学支援金制度の開始ならびにシステム変更に伴い、扱う情報量が急激に増

加しそれと同時に事務作業量も急増している。また、以前より多くの個人情報事務室に集まるようになりその管理も課題である。

(4) 教員による学校評価

教員による学校評価を年度末に実施しているが、集計結果は26～27ページに掲載している。全体の平均は3.53で平成30年度よりも0.1ポイント上昇、平成29年度と同じ数値となった。

個別の項目に目を移すと、「情報教育の充実」、「授業時数の確保」、「計画的な進路指導」など、改善の取り組みの効果が出てきている部分については当然ポイントが高くなっており、また、改善を始めていてもまだ十分でないと思われる部分はポイントが低くなっている。今後の重要性が高い項目ほど、現状では不十分と考えることが次年度の改善につながると考えている。

ただし、「生徒数・教員数とクラブ数」に関する項目に最も低い評価点がついていることは留意したい。平成31年度末に退職した教員に対し、新たに採用となった教員が少なく、授業・分掌での業務・生徒指導・クラブ指導など様々な場面で教員の負担が大きくなっている。次年度の採用には今まで以上に力を入れたい。

(5) 学校関係者による学校評価

学校関係者評価は、年度末にPTA役員に実施している。結果については28～35ページに掲載している。平成28年度に見直しを行った教員による学校評価と同様、学校関係者による学校評価についても項目の見直しが必要である。今後、調査対象者をPTA役員以外にも広げていきたい。

《H28》教員による学校評価項目の見直し

《H29》「クラブ指導に係る評価シート」による評価の実施

《H30》校務分掌の整理（特活厚生部の新設）

【現状と課題】

生徒により良い教育を提供することと教員の働き方改革の双方を実現するために、学校における様々な活動について見直しを行っている。しかしながら、まだまだ十分とは言えず、業務の精査や在り方の見直しを今後も継続していかねばならない。

3. 地域連携

(1) 地域社会への貢献

柏木町会を中心とした学校周辺地域と多くの場面で関わっている。今までも、夏祭りや餅つき、乃木神社例大祭、町会の新年会、柏稜PTA研修等の様々な機会に交流を持ってきた。

平成31年度の新たな取り組みとしては、柏木町会との合同清掃活動と避難訓練同一実施が挙げられる。清掃については平成30年度にも計画したが雨天のため中止となり、平成31年度が初実施となった。本校からは教員9名、生徒51名の計60名が参加し、町会の方と本校生徒数名でグループを作り清掃を行った。避難訓練については、本校の訓練時に同時進行で柏木町会の柏稜への共同避難訓練を実施した。本校の避難訓練は「校舎からの」避難、柏木町会の訓練は指定避難所である「柏稜への」避難であることから、同一時間帯での開催はできたが、共同での開催は難しい現状がある。内容を工夫して今後、可能性を探っていく。

(2) PTA活動

これまでのPTA活動は、「柏稜祭」での出店、「おやすみ処」への協力、研修会開催、「制服リサイクル」の呼びかけなどが主な活動であったが、一昨年度よりそれらに加えて、PTA役員の増員、学校行事への協力（校内スポーツ行事へのPTA賞の提供）により、活性化を目指した。これらの取組みも定着してきている。

(3) 同窓会活動

近年、同窓会参加者の減少傾向が続いており、その打開策として、年度ごとに積極的に声掛けをする学年を決めて同窓会との連携を図ることとなった。この取り組みを続け、参加者の増加を目指したい。

《H27》「おやすみ処」へのPTAとしての協力を検討

PTAと協力して制服リサイクルの取組み

《H28》「おやすみ処」へのPTAの協力

PTA役員の増強

校内の大運動会と競技大会へPTAとして副賞を提供

《H30》防災関係・清掃活動で柏木町会と協力

《H31》柏木町会との合同清掃実施・避難訓練の同一時間実施

【現状と課題】

地域連携は今後も重要な課題である。現在の教育改革においても「地域に開かれた学校」、「地域とともにある学校」であるということが重視されており、連携を強化することは生徒にとっても、そして地域にとっても大きなプラスとなり得る。

柏木町会との連携は少しずつ前進しているが、PTA・同窓会との連携をどのように強化していくかが課題である。

4. 校内研修

(1) 授業・学習指導方法の改善

平成28年度にカリキュラムを変更し、時間割に組み入れて国語、数学、英語の「学び直し」を開始した。平成29年度には1年HRとEnglish Roomへの電子黒板設置、平成30年度にはすべてのHRに電子黒板を設置した。平成31年度には「学び直し」を目的としてICT教材「スタディサブリ」を導入し、それにあわせて校内Wi-Fiを整備した。

電子黒板の活用は生徒にも好評で、生活状況等に関する調査によると84.5%の生徒が「とても良い」、「まあまあ良い」と肯定的な回答をしている。さらに応用的な活用も少しずつではあるが進んできており、平成31年度は「Power Point」を投影する機能だけでなく、動画視聴の機能も活用を始めることができた。

次年度は新学習指導要領を意識した研修と授業の改善に取り組む予定である。

① 授業時数の確保

平成27年度は1年生、平成28年度は1・2年生で、1単位年間35時間以上の授業時間数を確保した。平成27年度に取り入れた「柏稜タイム」活用や教科の授業数として読み替え可能な行事の精査により、平成28年度以降、1・2年生での授業時間数確保を達成してきた。

しかしながら、平成31年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴う臨時休業のため、1・2年生共に、一部の教科で数時間の不足が出た。

② 教科内、教科間での授業評価

教科内研修は実施時期・回数に教科によるばらつきがあった。「学び直し」の授業の準備

として、模擬授業の実施や新教材の研究などでの教科内研修が実施されていた。また、公開授業は、国語、数学、公民、英語、理科、商業で実施できた。

③「スタディサプリ」に関する研修

スタディサプリの導入に当たり、教員対象の研修を実施した。「ICT・学び直し委員会」が中心となり、業者を招いての研修や各種データを用いての研修を行った。

新たな取り組みであり、教員側も試行錯誤で進んでいったが、委員会の提案の下、教員が積極的にかかわり、順調に活用を開始することができた。また、各種の反省も記録しているので、次年度に生かしたい。

(2) 危機管理

① 防災対策

年1回の避難訓練は実施しているが、担任があらかじめHRにいる状況の実施であり、教科担当者が授業をしている状況での訓練実施など工夫が必要と思われる。地震に関しても同様でマニュアルはあるが、避難訓練と同時に実施するなどして地震に対する訓練も実施してみることが必要である。また、消防署だけではなく、関係業者（本校の場合は三和防災）とも連絡を取り避難訓練での機器使用方法に関してアドバイスをもらうことも大切と考えている。

本校は函館市指定の避難所となっているため、市より防災備品が届いている。現時点で保管している防災備品は次の通りである。これとは別に、学園独自の備蓄品のうち柏稜分として隣接の函館看護専門学校に、次の物を備蓄している。

・保存水 24 本入り 20 箱 ・保存用カンパン 60 食入り 24 箱 ・組み立て式簡易トイレ 5 台 ・簡易トイレ用の便袋 500 回分 5 セット ・毛布 230 枚 ・カセットコンロ 2 台 ・カセットボンベ 3 本 2 組 ・ダンボールベッド 12 台

(以上、函館看護専門学校備蓄)

【函館市より提供を受けた物品】

備蓄品一覧						
柏 稜						
物品名	1箱個数	単位	箱数	単位	総個数	単位
ポータブルストーブ					5	台
発電機					1	台
発電機用ガソリンタンク(20ℓ用)					1	個
発電機用オイル					1	本
メタハイドライト(照明)					3	機
照明用三脚(2照明用と1照明用各1台)					2	台
コードリール(発電機からの延長用)					1	台
缶詰パン						
アルファ米						
水(500ml)						
毛布						
簡易トイレ						

② 授業中の事故

保健室における応急の対応はするが、基本的には保護者に連絡し対応してもらうか、状況によってはためらわずに救急車を要請し対応する。病院への付き添いが必要な場合には、担任や養護教諭に固定せず、医師への説明を想定し、事故の状況がわかる教員（例えば、体育の授業中の事故であれば担当の体育教師）が同行し、その後担任と交代するなどして確実に保護者に引き渡している。

③ 不審者対策

平成 27 年度、登校時間帯に生徒玄関から精神的な病気を抱えた人が校内に侵入するという事件が起こったが、事務受付から目も届かず登校中の生徒や教職員から情報を得る以外防ぎようがないのが現実である。不審者侵入の問題もあるが、隣接するスポーツジムに通う人や近所の住民が校地内を近道として通り抜けていくことも多く、送迎や業者の車との接触事故が心配な状況である。このため、スポーツジムへの協力依頼やカーブミラーの設置など事故防止に努めている。

また、登下校中の安全を考え、「函館市 A N S I N メール」や警察・教護連盟等からの情報は、放送や H R で生徒に伝達し注意を促している。

④ 函大柏稜安心メールの導入

2018 年 9 月の北海道胆振東部地震とその後の大規模停電(ブラックアウト)の際、電話連絡網が機能しなかったことを踏まえ、一斉送信メールのシステムを導入した。函館市内の多くの小中学校で導入されているため保護者の理解もあり、100%に近い登録率となっている。一部の登録できない事情がある家庭には、担任が個別連絡する形で対応している。

《H27》「つまずき度テスト」の実施と「学び直し」の検討

教育課程の見直し（学び直しの実施と柏稜タイムの新設）

授業時数の確保に向けての対策実施

函館市への防災備品の提供の要望

《H28》「学び直し」の実施

A L T との T T 授業の開始

柏稜タイム運用開始

不審者侵入防止対策（看板設置）と桜が丘通り・学園通りのミラー設置

《H29》オンライン英会話の教員及び一部生徒によるデモンストレーションの実施

《H30》6 月と 3 月に 2 年生全クラス全員でのオンライン英会話の実施

「学び直し」の新教材決定のための研修会、新教材を「スタディサプリー」に決定、導入に向けての校内研修実施

函大柏稜安心メールの導入

《H31》スタディサプリーに関する研修

【現状と課題】

本校生徒の学力や学習状況の実態を直視し、今まで以上に生徒の興味関心を引き出す工夫を行うことが必要である。新学習指導要領も意識しつつ、より効果のある教育を目指した改善を続けねばならない。電子黒板、タブレット、W i - F i など環境面は整ってきており、今後はその環境をどう授業の中で生かしていくかが課題となる。

スタディサプリーの効果的な活用によって、課題となっている「授業外学習」の定着と基礎学力の充実、能力別・進路別の視聴、更に各種検定対策等幅広く活用させたい。また、電子黒板など I C T 設備の活用等を通して、授業改善を進めていきたい。

危機管理に関しては、引き続き函館市とも協力して災害備品の整備を進め、市の避難所としての役割も果たしていきたい。街中にありスポーツ施設も隣接していることから、校地内の通り抜けも多い。このため注意喚起の看板や危険防止のミラー設置も行ったが、録画型のネットワークカメラの設置など新たな不審者対策も検討していかなければならない。

5. 施設・設備等

(1) 図書室の運営

図書室の持つ重要な役割を考えて人員配置を変更し、図書室・図書委員の活動がより活性化するよう工夫している。書籍スペースが狭いため、古い図書の除籍処理と貸し出し率の高い新しい図書の購入を進め、稼働率の上昇を目指している。平成 31 年度には図書購入の流れを整理した。

(2) 保健室の運営

(ア) 生徒の定期検査と健康管理・日々の対応

健康診断の項目・時期・該当学年

項目	場所	時期	該当学年
健康調査	校内	入学時	1 学年
身体計測		4 月	全学年
視力検査		4 月	全学年
聴力検査		4 月	1・3 学年
尿意検査	中央病院健康管理センター委託	4 月	全学年
心電図		4 月	1 学年
レントゲン検査		4 月	1 学年
内科検診	学校医来校	4 月	全学年
歯科検診	歯科医来校	5 月	全学年

健康診断の未受診者 0 を目指し、日程を調整し何とか受診できるよう試みたが、不登校や学校を休みがちで受診を果たせなかった生徒もいた。

保健室の利用状況

年度 ()は在籍数	内科的	外科的	その他	相談	総計 ()は 在籍数に対する%
平成 27 年度 (489 名)	485	300	85	228	735 (150%)
平成 28 年度 (494 名)	728	404	111	169	1412 (286%)
平成 29 年度 (408 名)	484	317	69	235	1105 (271%)
平成 30 年度 (385 名)	393	300	42	194	929 (241%)
平成 31 年度 (329 名)	451	221	43	221	936 (284%)

上記の表からも分かるように、保健室の利用件数は、生徒数が減少しているにも関わらず増加している。また、一人当たりの保健室滞在時間も長くなる傾向がある。理由は様々あるが、たとえば、自分の症状を正確に認識し表現することが不得手で上手く伝えられない、身体以外の自分が抱えている問題への対処法が身についておらず不安でただ泣いてばかりいる等、精神的に未成熟な生徒が増えてきたことが挙げられる。また、表中の「相談」件数の増加については、中学校まで不登校傾向のあった生徒、別室登校だった生徒の入学が増えてきたことも一因と考えられる。学年団が丁寧なサポートを行っているが、それとは別に「思いを受け止める存在」としての養護教諭の役割が大きくなってきている。

また、制服の汚れや破損、タオル借用等、本来は自分で管理・対応すべき案件で来室する生徒が多いことが課題となっていたが、これについては近年の指導の効果もあって減少してきている。卒業後、社会に出る上では当然のことなので、自分で管理すべきこと、自分で解決する方法などを根気強く指導している。

スポーツ振興センター災害給付状況

年度	発生件数	給付件数	給付額
平成 27 年度	37	113	1,697,915 円
平成 28 年度	39	139	3,372,459 円
平成 29 年度	33	95	1,196,716 円
平成 30 年度	27	81	1,484,458 円
平成 31 年度	21	86	1,122,536 円

スポーツ振興センター災害給付状況については上表の通りである。ただ、発生件数は減ってきているが、大きな怪我が増えている。

<生徒の精神的・肉体的な支援>

高校生としては若い生徒が多く、特に困難・挫折・トラブルに直面し、乗り越える経験が少ない生徒が多い。自分の気持ちや怪我・病気の症状をうまく伝えることができない生徒が多く、症状を把握する上で粘り強く対応することが肝要となる。また、友人間のトラブルの原因の中にも、コミュニケーションをうまく取れないことによるものが多く見受けられる。

肉体的な支援としては新入生に健康調査を実施し、日常生活、体育の授業およびクラブ活動に支障のある病気やアレルギーを把握することにより、校内のみならず、クラブ活動での合宿や遠征時においても教育的な配慮ができるよう心がけている。また在校時に怪我や病気が発生した際には、保護者との連絡を速やかにとり、早退や通院等の対応をとっているが、最近は保護者と連絡が取れず、自宅に家族が不在等で対応に苦慮することが多くなっていることが問題である。その一方で、病気や怪我の相談だけではなく、学校生活全般にわたる様々な問題の相談のために養護教諭との面談を希望する保護者も増えてきている。

<スクールカウンセラーとの連携強化>

平成 24 年度より週 1 日配置されているスクールカウンセラーとの連携を強化している。特別な配慮を必要とする生徒や保護者への対応は、担当教諭・学年主任・クラブ顧問・養護教諭・スクールカウンセラーでチームを組んで行っている。直接カウンセリングを受けたくないといった生徒の問題も、養護教諭や担任がスクールカウンセラーと情報を共有し、対応や支援の方法を相談している。

<教職員の健康診断について>

教職員の健康診断は毎年 4 月に実施しているが、再検査となった教員は必ず受診して受診報告を全員がしている。

また、教職員の長時間労働が社会問題となっている現状を踏まえ、第一歩として勤務実態把握のため、平成 30 年にタイムレコーダー導入並びにストレスチェックテストを実施した。

(3) 施設・設備

① 安全面からの対策

平成 30 年度に、駐輪場として使用している第 2 体育館 1 階のコンクリート床面の滑り止め塗装を行い、安心して使用できる状態になった。また、本校の西門・東門に設置しているカーブミラーが破損(おそらくトラックその他によるもの)したため、修理を行った。

生徒のほとんどが所持しているスマートフォンの回収・保管方法を検討し、今後の授業等におけるスマートフォン活用を視野に入れると教室での保管が最適と判断した。「自立」という観点からも、貴重品を自己管理する習慣づけは必要と考え、教室に施錠できる個人ロッカーを新設した。また、それに伴い旧ロッカーの廃棄、並びにコート掛けも新設することとした。GW明けから使用を開始し、トラブルなく活用できている。

さらに、平成 30 年度に石川町の野球場に暗渠を新設し、平成 31 年度にグラウンド用土の補充を行った。

② 校舎の設備関係

前述の通り、個人ロッカーとコート掛けの設置を行った。7 年目を迎えていた第 3 P C 室のコンピュータ入れ替え、老朽化が進んでいた送迎バスの更新、私学振興基金協会の助成金を活用した教室照明の L E D 化を行った。

冬季休業中には長年の課題だったトイレの改修工事を行った。換気システムや照明の変更によって非常に清潔感があり、サイズを大きくした個室を設けたり、洋式便座を増やしたりしたことで、松葉杖などでも利用しやすい仕様となった。また、同時期に旧館用ボイラーが故障し、急遽修理を行った。

<平成 27 年度の施設設備の主な更新状況>

- ① ウレタン樹脂製の柔道マットの導入
- ② 会議室と職員室の改修
- ③ 生徒玄関改修と下足ロッカーの入れ替え
- ④ 2 階(3 年生 5 クラスと第一講義室)の学習机と椅子の入れ替え
- ⑤ 5 年以上経過した生徒用 P C の更新
- ⑥ 石川グラウンドサッカーコートの安全性確保

<平成 28 年度の施設設備の主な更新状況>

- ① 3 階と 4 階学習机と椅子の入替え
- ② 旧館 1 階と 1 階廊下&玄関内側の L E D 化
- ③ 第 2 体育館器具庫&更衣室の改修
- ④ 出入口カーブミラー、進入禁止&注意等の掲示板の設置

<平成 29 年度の施設設備の主な更新状況>

- ① 正面玄関前の物置の更新
- ② 第 2 情報処理室の P C 更新と O A フロア化
- ③ 第 3 情報処理室のエアコン新設

- ④1年生各教室への電子黒板設置及び電子黒板用タブレットの購入
- ⑤校内ネットワークの更改
- ⑥学園図書システム接続

＜平成30年度の施設設備の主な更新状況＞

- ①電子黒板の追加設置：2年生3年生普通教室、各講義室
- ②電子黒板用タブレットの追加購入
- ③視聴覚教室のプロジェクタの更新
- ④テニスコート夜間照明のLED化
- ⑤駐輪場として使用している第2体育館1階のコンクリート床面の滑り止め
- ⑥教室の生徒用ロッカーの新設（平成31年度春に繰越）
- ⑦ボイラー制御盤の交換
- ⑧校内Wi-Fiの設置
- ⑨石川町野球場の排水工事（暗渠設置）

＜平成31年度の施設設備の主な更新状況＞

- ①個人ロッカーならびにコート掛けの設置
- ②トイレ改修
- ③教室照明のLED化
- ④石川町野球場のグラウンド用の土を補充
- ⑤第3PC室コンピュータ入れ替え
- ⑥送迎バスの更新
- ⑦旧館用ボイラー修理

《H30》 タイムレコーダーの導入

【現状と課題】

安全面から、日常的に施設・設備に注意を払い、事故の未然防止に努めている。安全面での大きな課題は、不審者対策としてのネットワークカメラの設置であり、できるだけ早い時期に録画可能なカメラの設置を進めたい。また、より充実した教育活動に向け、ICT環境の整備をはじめとする必要な設備の拡充に取り組んでいきたい。特に令和2年1月に故障したボイラーについては、次年度、対策を講じる必要がある。

6. 管理・運営

(1) 安全教育・安全対策

① 生活・交通の安全教育・安全対策

＜AED（自動体外式除細動器）の設置＞

平成18年より、校内2か所にAEDを設置し万が一の事態に備えている。毎年、赤十字の協力を得て、使用方法の講習会を開いている。平成31年度には教員研修の中でAEDの講習も実施した。

＜薬物・性教育等の講演会＞

性教育については、年に1回1年生を対象に市内の産婦人科の医師による講演会を開いている。薬物に関しては、1～2年生を対象に函館税関の職員他、外部講師を招いて講演会を開催している。

<交通安全講習会>

毎年、年度初めに函館自動車学校の協力を得て、校内で自転車運転安全講習会を実施している。しかし、自転車通学の生徒が全市的に増加しており、それに伴って自転車同士、または自転車対自動車あるいは歩行者の事故が増加している。また、自転車の通行、駐輪等のマナーにも問題があり、苦情の電話が入ることがある。

(2) 財務関係

① 納付金

<授業料等の学納金口座引落とし管理システムの更新>

授業料等の学納金口座引落とし管理システムがX Pマシンである事、及び就学支援金などの複雑化する学費引落パターンに対応するため、平成 26 年度に学納金口座引き落とし管理システムの更新を行った。これに先立ち、平成 26 年度入学生から口座引落とし対象銀行を、2 銀行から 1 銀行とした。これにより平成 28 年度からは徴収の効率化が図られている。

② 就学支援金制度等

平成 22 年度に設けられた就学支援金制度が平成 26 年度入学生から新制度に移行し、経済的に厳しい家庭の学費負担がより軽減され、私立高等学校への就学がさらに容易になった。北海道による授業料軽減と併せると、授業料のほとんどを補助される世帯もある。

これらの制度を中学生ならびに保護者に周知していくことも、入学者を増やす一つの方策と考えられる。

平成 31 年度には「e-shien」システムの仮運用がはじまり、今後の事務負担軽減が期待される

③ 補助金

「管理運営補助金」の「特色教育加算」に関する取り組みは重要であるが、中には本校では実施不可能な項目も含まれている。時には、特色が薄れ加算項目から外れることもあるし、本校教員の何気ない取り組みが特色ある教育に結び付いていることもある。まず、今どのようなことが学校に求められているのか、時代や社会のニーズを把握するようにアンテナを張って教育内容の充実に努め、次いで教職員の補助金に関する意識を高め、加算項目の取りこぼしのないように注意していきたいと考えている。平成 30 年度入試に向けて、平成 29 年度に教育改革推進項目にある、入学金減免制度を新設した。

④ 予算・決算

<編成方針と執行>

厳しい財政状況の中、各支出科目の内容を吟味し、教育効果が上がるよう効率的な予算編成を目指していく。

期中においては、日常業務にも追われ、執行時期が遅れる事があり、反省すべき点である。この反省点から、常に執行状況に注意を払い、的確な予算運用に努めていくが、予算未計上の突発的事案については、学園本部に稟議をあげ、対応していくこととなる。

また、修繕作業等の予定が入った場合には、授業・補習・検定等に支障が出ないように、スケジュールの管理を怠らないように注意していく。

<収支のバランス>

経常収支差額比率 10%以上を目標に、教育内容充実により入学者増加による収入増、施設設備の老朽化により、修繕や改修が必要となる中、無駄な経費の削減により支出減を図り、収支のバランスの均衡に努めていく。

【現状と課題】

国の就学支援金、道の授業料軽減補助、奨学のための給付金制度など、経済的支援は充実してきたが、その分、事務作業は年々増加している現状である。また、制度変更・システム変更も実施されており、今後も細心の注意を払っての対応が必要である。

「管理運営補助金」の「特色教育加算」の獲得では、教員との連携を密にして取りこぼしの無いよう心掛けている。

《H30》平成30年度入学生より、入学金の減免制度を開始

《H31》「e-shien」システムの仮運用開始

令和元年度 学校評価表

No. 1

良 ← 並 → 悪
5 4 3 2 1

点検項目	評価の観点	No	評価項目	評価点	評価点数					H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
					5	4	3	2	1	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点
・学園理念	学 園 訓	1	学園訓が全ての生徒の教育活動の具体的指針として位置づけられていると思いますか。	3.58	3	10	12	1	0	(3.71)	(3.68)	(3.70)	(3.70)	(3.69)	(3.63)	(3.59)	(3.34)	(3.38)	(3.29)
		2	学園訓が生徒や保護者に理解されるよう配慮されていると思いますか。	3.27	2	5	17	2	0	(3.38)	(3.48)	(3.49)	(3.45)	(3.50)	(3.43)	(3.44)	(3.11)	(3.13)	(3.19)
・教育目標	学校教育目標	3	教育目標として掲げている、 ①自ら学び続ける資質の育成 ②グローバル化時代の一員として、社会で自立・貢献できる人材の育成 ③感謝と思いやりの気持ちを持った良識ある生徒の育成 は教職員に理解されていると思いますか。	3.54	1	14	9	2	0	(3.62)	(3.42)	(3.35)	(3.67)	(3.81)	(3.77)	(3.97)	(3.69)	(3.75)	(3.71)
・教育の重点課題	今年度の教育の重点課題	4	今年度の教育の重点課題として掲げた、 ①CDP継続 ②新教育課程の実施 ③実践的な外国語教育 ④商業科の活性化 に取り組めたと思いますか。	3.50	2	10	13	1	0	(3.62)	(3.61)	(3.78)	(3.85)	(3.97)	(4.09)	(3.97)	(3.74)	(3.78)	(3.67)
・経営の重点課題	今年度の経営の重点課題	5	今年度の経営の重点課題として掲げた、 ①教育環境の整備 ②教員の資質向上(自ら資質向上に努める体質づくり) ③勤務体制の見直し(実態把握・改善案作成) に取り組めたと思いますか。	3.15	2	7	11	5	1	(3.29)	(3.39)	(4.03)	(3.48)	(3.88)	(3.74)	(3.94)	(3.86)	(4.05)	(4.03)
・編成	教育課程の編成	6	生徒の能力、適性、進路に適合するよう教育課程が編成され、実施されていると思いますか。	3.58	2	11	13	0	0	(3.38)	(3.68)	(3.51)	(3.45)	(3.44)	(3.40)	(3.59)	(3.46)	(3.48)	(3.39)
		7	普通科において情報教育を充実することが、本校の教育活動に有益であると思いますか。	4.19	11	9	6	0	0	(4.18)	(4.19)	(4.19)	(4.27)	(4.28)	(4.31)	(4.31)	(4.46)	(4.38)	(4.11)
・コース制	コース制	8	本校の課程は、生徒や保護者の期待に沿ったものとして設定されていると思いますか。	3.62	1	14	11	0	0	(3.38)	(3.58)	(3.38)	(3.61)	(3.69)	(3.57)	(3.72)	(3.69)	(3.50)	(3.42)
・学級	学級運営	9	学年団の連携と協力のもと、各学級が適切に運営されていると思いますか。	3.65	3	13	9	0	1	(3.71)	(4.03)	(3.62)	(3.97)	(3.88)	(3.94)	(3.91)	(3.66)	(3.60)	(3.65)
		10	学級担任・副担任は生徒の能力や個性を把握し、それに応じた指導をしていると思いますか。	3.42	1	12	11	1	1	(3.59)	(3.94)	(3.78)	(3.82)	(3.81)	(3.86)	(3.88)	(3.91)	(3.73)	(3.77)
・学習	学習指導	11	生徒の能力、適性等を考え、教科指導計画が立てられていると思いますか。	3.42	0	12	13	1	0	(3.76)	(3.71)	(3.62)	(3.45)	(3.66)	(3.60)	(3.59)	(3.49)	(3.43)	(3.48)
		12	生徒の学習意欲を高めるため、学習指導内容や指導方法について工夫・改善がなされていると思いますか。	3.65	2	13	11	0	0	(3.41)	(3.68)	(3.57)	(3.58)	(3.56)	(3.54)	(3.59)	(3.51)	(3.38)	(3.45)
		13	現在の講習・補習システムが生徒の学習意欲を喚起するために機能していると思いますか。	3.50	2	11	11	2	0	(3.38)	(3.48)	(2.57)	(2.79)	(3.06)	(3.11)	(3.00)	(2.71)	(3.05)	(2.87)
		14	生徒の学力向上のために、年間授業時数が十分に確保されていると思いますか。	4.19	11	9	6	0	0	(4.24)	(4.42)	(4.08)	(4.24)	(4.38)	(4.26)	(4.19)	(3.97)	(3.65)	(3.84)
・行事	学校行事	15	教師間の共通理解のもと、学校の創意に富んだ学校行事が展開されていると思いますか。	3.42	2	10	11	3	0	(3.24)	(3.48)	(3.46)	(3.64)	(3.69)	(3.83)	(3.59)	(3.31)	(3.50)	(3.45)
		16	全教師がそれぞれ役割を分担し、相互に協力して生徒の指導に当たる体制ができていると思いますか。	3.15	2	5	15	3	1	(3.12)	(2.97)	(3.03)	(3.18)	(3.34)	(3.46)	(3.34)	(3.14)	(3.38)	(3.00)
・学級活動	LHR活動	17	LHRの時間には、クラスの自発的な活動を援助するよう計画的に運営されていると思いますか。	3.46	3	8	13	2	0	(3.26)	(3.19)	(3.16)	(3.39)	(3.31)	(3.57)	(3.41)	(3.43)	(3.33)	(3.30)
・総合学習	総合的な学習の時間	18	この時間は生徒が自ら課題を解決するための創意工夫を促す活動の時間として運営されていると思いますか。	3.73	4	12	9	1	0	(3.71)	(3.42)	(3.24)	(3.79)	(3.72)	(3.80)	(3.91)	(3.77)	(3.55)	(3.19)
・生徒会	生徒会活動	19	個々の行事の特質に応じて、生徒の自発的な活動を助長するよう指導がされていると思いますか。	3.50	2	10	13	1	0	(3.35)	(3.48)	(3.78)	(3.85)	(3.78)	(3.83)	(3.88)	(3.40)	(3.18)	(3.03)
		20	年間の教育計画において、生徒会活動の占める割合が適切であると思いますか。	3.38	1	10	13	2	0	(3.38)	(3.58)	(3.76)	(3.79)	(3.63)	(3.66)	(3.72)	(3.40)	(3.38)	(3.11)
・運営	学校運営	21	学校の将来像を見据えた学校運営が行われていると思いますか。	3.23	1	10	10	4	1	(3.12)	(3.06)	(3.08)	(3.39)	(3.66)	(3.83)	(4.00)	(3.54)	(3.40)	(3.00)
		22	運営協議会・経営部会・委員会は、適切に機能していると思いますか。	3.35	1	9	14	2	0	(3.26)	(3.35)	(3.35)	(3.58)	(3.19)	(3.34)	(3.44)	(3.37)	(3.35)	(3.13)

令和元年度 学校評価表

No. 2

良	←	並	→	悪
5	4	3	2	1

点検項目	評価の観点	No	評価項目	評価点	評価点数					H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
					5	4	3	2	1	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	評価点
・組織	分掌組織	23	各組織の連携が十分行われ、学校として調和のとれた組織として機能していると思いますか。	3.19	2	7	11	6	0	(2.97)	(3.19)	(3.19)	(3.30)	(3.41)	(3.43)	(3.38)	(3.09)	(3.45)	(3.23)
		24	校務分掌は、校務を運営する上で、効果的に機能していると思いますか。	3.46	1	11	13	1	0	(3.18)	(3.00)	(3.57)	(3.52)	(3.47)	(3.37)	(3.34)	(3.29)	(3.53)	(3.42)
		25	CSDH・SSEC・Q-Uは、情報共有および学級運営に活かされていると思いますか。	3.08	2	4	14	6	0	(3.15)	(3.16)	(3.22)	(3.18)	(3.28)	(3.43)	(3.59)	(3.23)	(3.03)	(2.84)
・関連校との連携	学園関連校との連携	26	教育活動、生徒の進路等の面で、学園内における連携が図られていると思いますか。	3.35	1	11	11	2	1	(3.53)	(3.45)	(3.54)	(3.73)	(3.59)	(3.89)	(3.59)	(3.14)	(2.95)	(2.90)
・生活	生徒指導	27	教師と生徒の情報関係を育てることが、指導の根拠におかれていると思いますか。	3.73	5	11	8	2	0	(3.85)	(3.68)	(3.65)	(3.82)	(3.88)	(3.74)	(3.94)	(3.89)	(3.73)	(3.83)
		28	家庭や各組織との密接な連携のもとに、組織的な指導が行われていると思いますか。	3.54	2	12	10	2	0	(3.56)	(3.61)	(3.35)	(3.67)	(3.66)	(3.74)	(3.91)	(3.66)	(3.45)	(3.23)
		29	本校の生徒指導は、基本的な生活習慣の確立につながっていると思いますか。	3.58	2	12	11	1	0	(3.47)	(3.84)	(3.38)	(3.85)	(3.84)	(3.97)	(4.06)	(3.89)	(3.75)	(3.83)
・進路	進路指導	30	進路指導部との連携のもとに、的確な情報・資料を提供し、計画的、組織的に指導していると思いますか。	4.08	7	14	5	0	0	(4.03)	(3.58)	(3.22)	(3.48)	(3.63)	(3.86)	(3.94)	(3.74)	(3.70)	(3.37)
		31	個別指導など進路相談を充実することにより適切な援助・指導がなされていると思いますか。	3.85	5	12	9	0	0	(3.85)	(3.48)	(3.43)	(3.79)	(3.81)	(3.94)	(3.91)	(3.63)	(3.75)	(3.67)
		32	キャリア教育の充実を基礎として将来的な視点に立った指導が行われていると思いますか。	3.81	5	12	8	1	0	(3.74)	(3.42)	(3.30)	(3.61)	(3.69)	(3.89)	(3.81)	(3.83)	(3.68)	(3.57)
		33	講習が生徒全体の能力向上のために、効果的に実施されていると思いますか。	3.69	5	10	9	2	0	(3.74)	(3.29)	(2.92)	(3.12)	(3.47)	(3.51)	(3.53)	(3.23)	(3.25)	(3.40)
・部活動	部活動	34	本校の部活動が生徒にとって充実した教育活動となっていると思いますか。	3.73	3	14	8	1	0	(3.53)	(3.71)	(3.65)	(3.64)	(3.69)	(3.89)	(3.91)	(3.51)	(3.23)	(3.33)
		35	部活動の数は、生徒数・教員数から考え、適切だと思いますか。	2.50	1	2	8	13	2	(2.88)	(2.77)	(3.03)	(3.03)	(3.13)	(3.26)	(3.13)	(2.71)	(3.15)	(2.60)
・各種研修	研 修	36	校外での研修会参加や他校訪問などが、教師の資質向上のための有効な手段になっていると思いますか。	3.23	1	8	13	4	0	(3.26)	(3.23)	(3.32)	(3.45)	(3.66)	(3.69)	(3.50)	(3.43)	(3.70)	(3.80)
		37	健康安全教育の禁煙・薬物・交通安全に関する講習・研修会は生徒のために意義あるものになっていると思いますか。	3.69	3	13	9	1	0	(4.18)	(3.84)	(3.95)	(3.97)	(4.13)	(4.14)	(4.13)	(3.86)	(3.95)	(3.93)
		38	定例職員会議で行う研修会は、教員の資質向上に役立っていると思いますか。	3.19	2	6	13	5	0	(3.26)	(3.42)	(3.49)	(3.39)	(3.94)	(3.86)	(3.97)	(3.69)	(3.87)	(3.93)
・連携	保護者・地域社会との連携	39	柏木町会等、地域社会との連携は図られていると思いますか。	3.58	5	8	10	3	0	(3.53)	(3.68)	(3.68)	(3.55)	(3.59)	(3.77)	(3.75)	(3.26)	(3.33)	(3.17)
		40	PTAとの連携は図られていると思いますか。	3.77	6	8	12	0	0	(3.68)	(3.61)	(3.62)	(3.33)	(3.22)	(3.46)	(3.50)	(3.03)	(3.23)	(3.00)
		41	本校は地域社会に対してボランティア活動が十分に行われていると思いますか。	3.54	3	11	9	3	0	(3.56)	(3.68)	(3.46)	(3.76)	(3.72)	(3.51)	(3.81)	(3.51)	(3.55)	(3.37)
		42	本校の行事等の様々な活動は、地域社会に認知されていると思いますか。	3.73	4	12	9	1	0	(3.41)	(3.58)	(3.41)	(3.58)	(3.56)	(3.57)	(3.53)	(3.31)	(3.25)	(3.00)
・生徒募集	生徒募集	43	学校見学会で、中学生や保護者に、効果的に本校をアピール出来たと思いますか。	3.88	4	15	7	0	0	(3.53)	(3.42)	(3.51)	(3.85)	(3.72)	(4.20)	(4.03)	(3.94)	(3.88)	(3.77)
		44	現在の中学校訪問による生徒募集システムは効果が上がっていると思いますか。	3.73	4	14	6	1	1	(3.26)	(3.16)	(2.76)	(3.00)	(3.09)	(3.51)	(3.47)	(3.14)	(3.38)	(3.03)
・管理運営	管理運営に関すること	45	本校の危機管理に対する体制は整備されたものと思われますか。	3.19	1	6	17	1	1	(3.29)	(3.39)	(3.19)	(3.18)	(3.56)	(3.71)	(3.53)	(3.46)	(3.45)	(3.30)
		46	事務と教員の連携は上手に図られていると思いますか。	3.69	2	15	8	1	0	(3.97)	(4.00)	(3.70)	(3.67)	(3.69)	(3.83)	(3.84)	(3.60)	(3.78)	(3.03)
・各種予算	予算について	47	教育活動を充実させるため、効果的な学校運営を行うため、予算の計画・執行が適切に行われていると思いますか。	3.58	3	10	12	1	0	(3.56)	(3.68)	(3.59)	(3.58)	(3.66)	(3.69)	(3.63)	(3.51)	(3.40)	(2.93)
・社会的責務	社会的責務について	48	本校は生徒・先生方の個人情報の取り扱いに関して注意深く慎重に行っていると思いますか。	3.58	4	9	11	2	0	(3.76)	(3.65)	(3.78)	(4.03)	(3.75)	(3.83)	(4.09)	(3.69)	(3.78)	(3.73)
		49	先生方はセクシャルハラスメント・パワーハラスメントについて十分に注意して言動を行っていると思いますか。	3.38	2	8	14	2	0	(3.56)	(3.45)	(3.30)	(3.42)	(3.41)	(3.20)	(3.44)	(3.17)	(3.28)	(3.13)

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

評価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
1、そう思わない

I 学校運営の状況

- | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|-----|---|---|---|
| 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |

II 授業等の状況

- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|---|---|
| 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |

III 生徒指導・管理の状況

- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|---|---|
| 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- | | | | | | |
|---------------------------------------|-----|---|-----|---|---|
| 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |

令和2年 3 月 10 日

氏名 中村 和代 印

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

評 価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
 3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
 1、そう思わない

I 学校運営の状況

- | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|---|---|---|---|
| 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

II 授業等の状況

- | | | | | | |
|---|-----|---|---|---|---|
| 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

III 生徒指導・管理の状況

- | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|---|---|
| 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- | | | | | | |
|---------------------------------------|-----|---|---|---|---|
| 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

令和2年 3月 3日

氏 名 廣部 由佳 印

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

- 評価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
1、そう思わない

I 学校運営の状況

- 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 5 (4) 3 2 1
2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 (5) 4 3 2 1
3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 5 (4) 3 2 1

II 授業等の状況

- 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 5 (4) 3 2 1
5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 5 (4) 3 2 1
6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 5 (4) 3 2 1

III 生徒指導・管理の状況

- 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。 5 4 (3) 2 1
8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 5 4 (3) 2 1
9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 5 4 (3) 2 1
10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 5 4 (3) 2 1

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 5 (4) 3 2 1
12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 5 4 (3) 2 1

令和2年 3月 19日

氏名 加澤 香織 印

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

評 価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
1、そう思わない

I 学校運営の状況

- | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|---|---|---|---|
| 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

II 授業等の状況

- | | | | | | |
|---|-----|---|---|---|---|
| 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

III 生徒指導・管理の状況

- | | | | | | |
|---|-----|---|---|---|---|
| 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- | | | | | | |
|---------------------------------------|-----|---|---|---|---|
| 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

令和2年 3 月 2 日

氏 名 伊東 真紀 印

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

評 価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
 3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
 1、そう思わない

I 学校運営の状況

- | | | | | | |
|-------------------------------------|---|-----|---|---|---|
| 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |

II 授業等の状況

- | | | | | | |
|---|---|---|-----|---|---|
| 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |
| 5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |
| 6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |

III 生徒指導・管理の状況

- | | | | | | |
|--|-----|-----|-----|---|---|
| 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的な生活習慣の指導を充分行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |
| 10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- | | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|-----|---|---|
| 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |
| 12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 | 5 | 4 | (3) | 2 | 1 |

令和2年 3 月 16日

氏名 山本 友樹 印

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

評 価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
1、そう思わない

I 学校運営の状況

- | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 | 5 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| 2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 | 5 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| 3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 | ⑤ | 4 | 3 | 2 | 1 |

II 授業等の状況

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 | 5 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| 5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 | 5 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| 6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 | 5 | ④ | 3 | 2 | 1 |

III 生徒指導・管理の状況

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。 | 5 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| 8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 | ⑤ | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 | ⑤ | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 | ⑤ | 4 | 3 | 2 | 1 |

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- | | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 | ⑤ | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 | ⑤ | 4 | 3 | 2 | 1 |

令和2年 3月 20日

氏名 石川 美穂

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

評 価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
1、そう思わない

I 学校運営の状況

- | | | | | | |
|-------------------------------------|-----|---|---|---|---|
| 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

II 授業等の状況

- | | | | | | |
|---|-----|-----|---|---|---|
| 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |

III 生徒指導・管理の状況

- | | | | | | |
|--|-----|---|---|---|---|
| 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的な生活習慣の指導を充分行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- | | | | | | |
|---------------------------------------|-----|-----|---|---|---|
| 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 | 5 | (4) | 3 | 2 | 1 |
| 12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 | (5) | 4 | 3 | 2 | 1 |

令和2年 3 月 3 日

氏 名 石 山 伸 美 印

令和元年度 学校運営に関する学校関係者評価

函館大学付属柏稜高等学校

- 評価 5、そう思う 4、どちらかと言えばそう思う
3、どちらとも言えない 2、どちらかと言えばそう思わない
1、そう思わない

I 学校運営の状況

- 1、学校の教育目標や重点目標は、生徒や保護者の要望にそったものである。 (5) 4 3 2 1
2、学校は、教育目標・重点目標達成のため努力している。 (5) 4 3 2 1
3、学校は、生徒・保護者・地域の期待に応えている。 (5) 4 3 2 1

II 授業等の状況

- 4、学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施されている。 (5) 4 3 2 1
5、学校は、授業を大切にし、生徒の興味・関心を惹く分かりやすい授業を展開している。 (5) 4 3 2 1
6、学校は、校内研修・科会を通じて、教職員の資質向上・授業改善に取り組んでいる。 (5) 4 3 2 1

III 生徒指導・管理の状況

- 7、学校は、生徒の服装・頭髪・身だしなみ等の基本的生活習慣の指導を充分行っている。 (5) 4 3 2 1
8、学校は、交通安全・薬物乱用防止・性教育等生徒の安全・保健指導を充分行っている。 (5) 4 3 2 1
9、学校は、キャリア教育に力を入れ、生徒の進路希望を叶える適切な指導を行っている。 (5) 4 3 2 1
10、部活動は、適切な管理体制の下、活発に行われている。 (5) 4 3 2 1

IV 家庭・地域との連携協力の状況

- 11、学校に関する情報が、分かりやすく適切に提供されている。 (5) 4 3 2 1
12、学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設けている。 (5) 4 3 2 1

令和2年 3 月 9 日

氏名 横山 薫 (印)